

## 第5学年A組 音楽科学習指導案

授業者 大山 光子  
研究協力者 吉澤 恭子

1 題材名 声のひびき合いを感じながら、合唱しよう

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは、4年生の歌唱表現の学習において、かけ合いや重なりのある二部合唱を経験してきている。教材曲「ブバボ」「もみじ」では、同じ旋律や異なる旋律で追いかけてをしたり、音を重ねて歌ったりする楽しさを味わった。二分の一成人式で歌った曲「変わらないもの」では、曲想や歌詞の内容などの曲の特徴に合わせた表現を工夫するとともに、感謝の気持ちを歌声で表そうとする姿が見られた。また、二部合唱で二つの声部の音の重なりに心地よさを感じたり、きれいに重なっている合唱のよさを実感したりすることができた。

このようにして、二部合唱のよさを味わいながら歌うことに取り組んできており、5年生になって新しい仲間と歌声をつくっていく段階で、歌詞の内容に合った表現をするよさを感じ始めている。しかし、「高い音域がよく出せない。」「他のパートにつられてしまう。」「声量のバランスがよくない。」など、声を合わせて歌うことについては課題が見られる。よりよい表現のために歌声のスキルアップを図りながら、少人数で響きのある声で歌うことなどを通して、仲間と一緒に自信をもって歌う姿を引き出したい。

(2) 題材について

本題材で取り上げる教材曲「ハロー・シャイニングブルー」は、ト長調、4/4拍子、二部形式からなり、後半が二部合唱になっている。自然からのメッセージや自然の雄大さを表現している曲である。歌詞の内容から、自然への思いを読み取ることもできる。後半の二部合唱の部分は、なだらかな起伏の旋律で構成され、強弱の細かな指定が特にならないことから、表現の工夫も考えやすくなっている。そのため、子どもたちの曲に対するイメージや思いを、歌い方や強弱等で表現することが可能であると考ええる。

また、後半の二部合唱の部分では、音の響き合いを味わいながら、曲想にふさわしい盛り上げ方を工夫し、主旋律と副次的な旋律の強さのバランスにも気を付けて表現することが期待できる。音の重なりや音色（声色）、音楽の縦と横の関係を意識しながら表現することを学ばせていきたい。

教材曲のこうした特徴を生かし、本題材では、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うという資質・能力を高めることを目指す。

(3) 指導について

本題材で育む資質・能力を高めるために、音の重なりや強弱、音楽の縦と横の關係に着目し、声の響き合いを感じながら、曲の特徴にふさわしい表現の工夫を考えるという「見方・考え方」を題材を通して働かせる。

導入では、いろいろな合唱形態での歌声を鑑賞することで、音や声の重なりなどが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、合唱の響きや演奏のよさを見いだす活動を設定する。また、合唱部の演奏を視聴することで、同声合唱の響きを身近に感じることができるようにする。

曲との出会いの場面では、作詞者からのメッセージ映像を視聴したり、歌詞を声に出して読んだりする活動を取り入れることで、曲のイメージを思い描くことができるようにしたい。全体で曲の特徴を捉え、言葉で伝え合う活動を通して共有していく。特に、歌詞の内容や曲のつくりに着目することで、強弱による表現の工夫につなげていきたい。また、前年度に先輩たちが歌った動画を視聴することで、自分たちも素敵な合唱をつくり上げていきたいという意欲を高めていきたい。

各声部を歌う段階では、一人一人が自信をもって歌うことができるように、楽譜を基に全体で上声部・下声部の音取りを丁寧に行っていく。各フレーズごとから始め、前半・後半と増やしていき、常に無理のない発声を心がけるよう助言することで、響きのある歌声を意識できるようにする。各声部が歌えるようになったら、自分の声質や出る音域、各声部の役割や人数のバランスなどから、どちらの声部にするのか選ぶ活動を設定する。そして、互いが選んだ声部を仲間と歌い合っていく場面では、少人数でのアンサンブル活動を取り入れることで自分の役割を意識し、それぞれの技能を高めていくようにしたい。

合唱をつくり上げていく段階では、声の響き合いを意識することができるように、「演奏する役」と「聴き役」に分かれて歌ったり聴いたりする活動を取り入れていく。自分たちの演奏を録音し聴くことを通して、音の重なりや声の響き合いがどうであるかなど、音楽的な要素に着目して省察しながら、よりよい表現を目指していきたい。何よりも、歌っている瞬間に声が響き合っている感覚を味わうことができるようにしていきたい。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すると共に、柔らかく無理のない発声で、各声部の歌声や全体の響きを聴き、周囲と調和しながら歌うことができる。

〈A-6・A-12・A-15〉

(2) 各声部の音の重なりや強弱に着目し各声部のバランスを考え、特徴にふさわしい表現を工夫しようとする。

〔共通事項〕1・イ・A-3)

(3) 音や声の重なりに興味・関心をもち、自分と周囲が奏でる響き合いの美しさ、心地よさを味わいながら聴いたり演奏したりしようとしている。

〈ア・エ〉

4 題材の構想（総時数6時間）※選択・決定を通して、自律的に学習を進めるための支援

4年 きき合って 歌おう 「プパポ」「もみじ」  
 ・かけ合い（追いかっこ） ・音の重なり

| ○本題材の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」<br>音の重なりや強弱、音楽の縦と横の関係に着目し、<br>声の響き合いを感じながら、曲の特徴にふさわしい表現 | 時間  | 学習活動<br>(・は予想される子どもの姿)   | 教師の主な支援   | 評価〈本校の資質・能力との関連〉                              |  |
|--|---|--|---|---|--|
|  | 1   | (1) いろいろな形態の合唱の響きを味わいながら聴く。<br>・女声合唱は音がとても高いな。<br>・テノールやバスという種類のパートもあるんだね。                                     | ・声の種類や形態によって、響きの感じや曲の印象が変わることに気付き比較することができるように、同じ曲を準備する。  | ・それぞれの形態の合唱に興味・関心をもち、響きや演奏のよさを見いだして聴いている。〈エ〉  |  |
|  | 2   | (2) 「ハロー・シャイニングブルー」を聴き、曲の特徴を捉え、イメージを共有する。<br>・高い音が伸びていてさわやかな感じがするね。<br>・追いかっこをしているところがあるよ。<br>・ぼくたちもお手本になりたいな。 | ・曲のイメージを思い描くことができるように、作詞者からのメッセージ映像を視聴したり、歌詞を声に出して読んだりする場を設ける。<br><br>・合唱したいという気持ちを高めることができるように、前年度に先輩たちが歌った動画を視聴する場を設ける。 | ・曲の特徴を理解し、どのように歌いたいのか思いをもっている。<br>〈1・ア・A-3〉   |  |
|  | 学習課題  |  | 声のひびき合いを感じて歌おう。   |   |  |
|  | 3   | (3) 「ハロー・シャイニングブルー」の上声部・下声部を歌う。<br>・上声部で高い音を伸ばすのが難しいな。   | ・各声部とも正確に歌うことができるように、楽譜を見ながら音符の長さや休符を確かめる場を設ける。   | ・曲想と音楽のつくりとの関わりについて理解している。<br>〈A-6〉           |  |
|  | 4   | ・自分の声は低い音がよく出るから、下声部にしよう。  | ・各声部を歌うことで自分の声質や音域から、どちらの声部にするか決める場面を設ける。<br><br>・自分の役割を意識し、それぞれの技能を高めることができるように、少人数でのアンサンブル活動を取り入れる。                     | ・呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない、響きを意識した歌い方で歌っている。〈A-12〉 |  |
| 5  | (4) 「ハロー・シャイニングブルー」を音の重なりや響き合いに気を付けて合唱する。<br>・主旋律の上声部がよく聞こえない。<br>・音符の長さどおり伸ばしてないよ。 | ・自分たちが目指す響き合う合唱を再確認し、前時の演奏からの課題を確かめる場を設ける。<br>・声の響き合いを感じて聴き合うことができるように、「演奏する役」「聴き役」に分かれて歌ったり聴いたりしながら対話する場を設ける。 | ・各声部の重なりが作り出す音の重なり的美しさに気付き、互いのバランスを考えながら合唱しようとしている。〈イ・A-15〉   |   |  |
| 6  | (5) 「ハロー・シャイニングブルー」を表現を工夫して合唱する。  | ・今後も声の響き合いを意識して合唱することができるように、曲の特徴やつくりなどの表現の工夫やつくりなどのポイント（強弱・音色など）をまとめる活動を設定する。                                 | ・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、各声部の歌声や全体の響きを聴いて歌っている。<br>〈ア・A-3・12・15〉   |   |  |

◎本題材で育む主な資質・能力  
 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いをもち自然で無理のない歌い方で歌う。  
 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。(A-3・A-12・A-15)

かけ合いや重なりを生かして 「星笛」  
 ・リコーダーの音色 ・音の重なりや響き合い

5 本時の実際 (5 / 6)

- (1) ねらい 音の重なりや音楽の縦と横の関係に着目し、互いに聴き合うことを通して、響き合いを感じながら歌うことができる。 (A-15・イ)
- (2) 展開 ○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

| 時間   | 学習活動<br>(・は予想される子どもの姿)  | 教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>   |
|--|---|--|
| 5分   | <p>① 前時の演奏をもとに、本時の学習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後半、声量のバランスがあまりよくないな。</li> </ul>  | <p>○響き合いを意識した合唱をつくることができるように、前時の終盤の録音をもとに、本時でよりよい表現のために必要なことについて、出し合う場を設定する。</p>   |
| <p>学習課題<br/>ひびき合いを感じながら、「ハロー・シャイニングブルー」を合唱しよう。</p> |   |  |
| 5分   | <p>② 各声部に分かれて「ハロー・シャイニングブルー」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い音は、お腹に力を入れて出すといいよ。</li> <li>・自信のない人は、よく声の出る人のとなりに並ぶといいよ。</li> <li>・伸ばす音は、しっかりとブレスをしておくんだね。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲のつくりから各声部の役割を意識して歌うことができるように、拡大楽譜を準備し歌い方の共有化を図る。</li> <li>・一人一人が自信をもって歌うことができるように、また、聴く耳を育て、響き合いを実感することができるように、響きを意識して発声できているときは全体に紹介し、価値付ける。</li> </ul>  |
| 25分  | <p>③ 「ハロー・シャイニングブルー」を合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんたちみたいに歌うためには、どうしたらいいのかな。</li> <li>・バランスをよくするためにも、きちんと発声しないとイケないよ。</li> <li>・主旋律だから、よくきこえた方がいいんじゃない。</li> <li>・各パートの役割を考えて強弱をつけるといいんだね。</li> <li>・強弱を歌声で表現することって、難しいな。</li> <li>・上下パートの声量のバランスがちょうどよかった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音や声の重なりをしっかりと聴き取りながら歌うことができるように、はじめは、伴奏ではなく、拍打ちだけで歌うようにする。</li> <li>・音や声が重なるということがどのようなことなのか実感することができるように、声の響きを意識して歌っている子どもをモデルとして取り上げる。</li> </ul> <p>○声の響き合いを感じて聴き合うことができるように、「演奏する役」と「聴き役」に分かれて歌ったり聴いたりしながら、「対話」する場を設ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>音や声の重なりや曲の特徴に着目して、各声部の声量のバランスに気を付け、声の響き合いを感じながら歌っている。<br/>(A-15・イ) (歌っている表情や様子・歌声・発言)</p> </div> |
| 10分  | <p>④ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、声の重なりのバランスがよかったね。</li> <li>・声が響き合うって、気持ちのよいことだって分かった。</li> </ul>  | <p>○よりよい表現につなげていくことができるように「どう変わったのか」「なぜ変わったのか」という視点を提示し、本時の合唱を録音したものを聴いて振り返る活動を設定する。</p>   |